

歯学専攻のディプロマポリシー

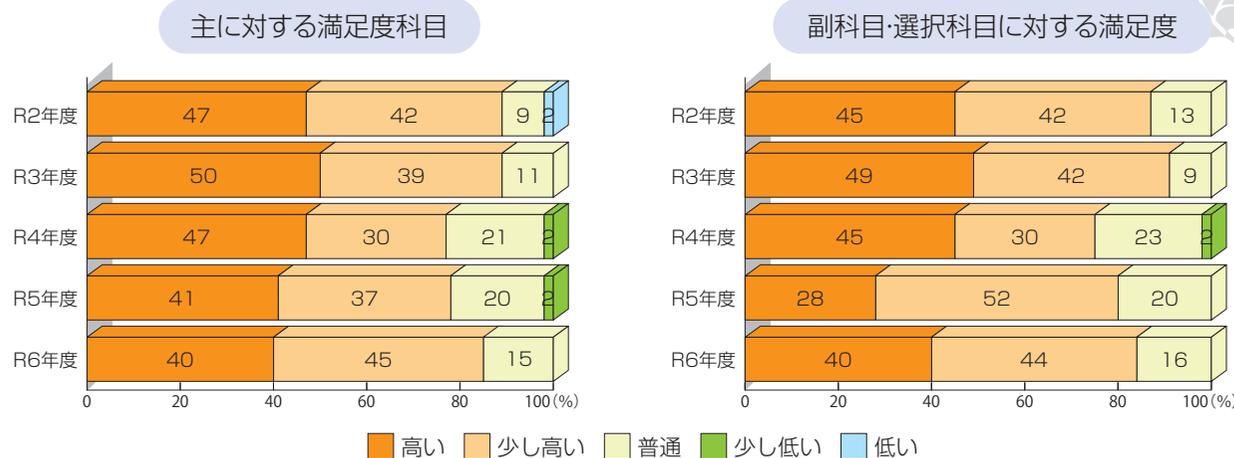
1. 生命科学に関する幅広い知識を習得し、自らが主体的に研究を遂行できる総合的能力が備わっていること
2. 専門的医療人として、科学的根拠に基づいて論理的な思考を展開する能力を有し、先駆的医療の発展に貢献する能力が備わっていること
3. 生涯にわたり研鑽し、全身の健康という視点に立った口腔領域の研究を先端的・独創的に推進する能力が備わっていること
4. 学際領域の学問分野と協働し地域社会と連携した研究を展開し、地域社会の発展に寄与する能力が備わっていること
5. 多職種と連携した歯科保健医療活動を通して、社会貢献する能力が備わっていること
6. 海外の研究者との積極的な情報交換を行い、国際社会へ研究成果を発信できる能力が備わっていること

アンケート調査結果を報告します

大学院生の履修科目についての満足度、シラバスや学習相談、および研究の実態などについて、令和2年～令和6年度の5年間を比較しました。

① 主科目および副科目・選択科目に対する満足度

主科目および副科目・選択科目の「高い」および「少し高い」の割合が、令和6年度は約8割となっていました。これらの科目の満足度がさらに増加するように、改善を進めていかなくてはなりません。

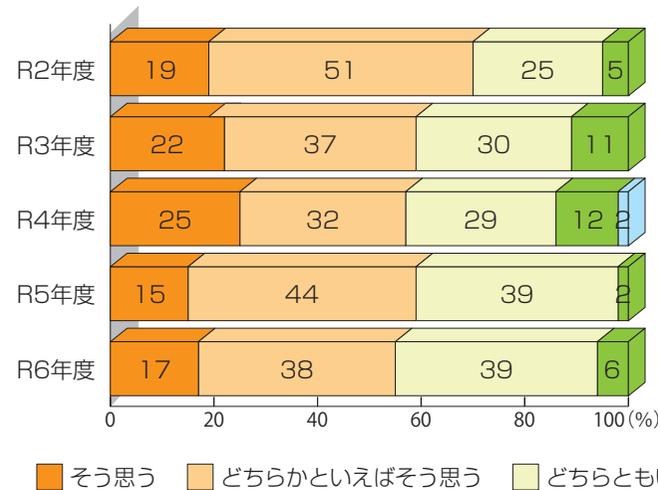


② シラバスや学習相談などについて

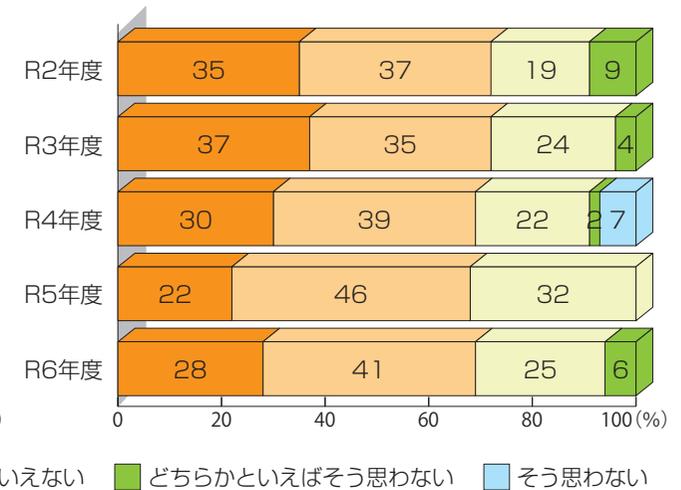


シラバスの分かりやすさ、および学習相談の適切さの「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は、令和3年度以降、維持されています。今後、さらにこれらの割合が増加するように、教育改善を進めていかなくてはなりません。

シラバスは分かりやすいですか



学習相談や助言などは適切に行われていると思いますか



③ 研究指導に対する満足度



研究指導に対する満足度の「高い」「少し高い」の割合は、令和2年度以降6割前後を維持しています。さらに、令和6年度では、満足度「低い」「少し低い」の割合は、2%しかありませんでした。

